

職能科通信 41号

2019年2月発行 職能科通信

検索Q

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2571

「脊髄損傷のリハビリテーション（理解編）」研修報告

平成30年7月18日（水）、地域リハビリテーション支援センター主催の表記研修会が当院にて開催されました。この研修は、脊髄損傷者の医学的知識や生活管理の考え方、在宅生活に向けての調整や社会参加に向けた支援について学ぶ目的で、毎年開催されています。今回は、社会福祉士や看護師、セラピストなど約50名の方が参加しました。

脊髄損傷者の理解	リハビリテーション科 横山修
脊髄損傷者の看護	看護師 鈴木博明
脊髄損傷者の相談支援	相談科 小島由香里
脊髄損傷者の就労支援	職能科 安河内奈々
脊髄損傷と尿路管理	泌尿器科 田中克幸

表1 研修会プログラム



職能科からは、障害者雇用に関する法律や職能科の支援の紹介、多様な働き方の一例として段階的に復職中の事例を発表しました（表1）。今回の受講者の半数位が、医療機関に勤めるセラピストの方でした。セラピストは、障害者雇用に関する法律や社会保険制度、休職に関わる手続きや流れなどを学ぶ機会が少ないと思います。今後、事例支援を通して、新しい情報を学び、共有する仲間づくりをしていきたいです。

受講した方から「在宅生活に戻り、さらに社会の中に戻るための支援・調整について知ることができてよかった。」との感想を頂戴しました。入院期のリハビリテーションは治療やケアが優先となりますが、社会参加の視点をもって支援することは、新規就労・復職を目指す方も、就労ではない余暇活動を始める方も、双方にとって必要であることを感じて頂いたのであれば幸いです。他方で「該当する利用者様がいなかった。」というご意見も頂きました。今回の内容は、入院中の在勤者への支援に関する話を中心でしたので、次回からは介護保険対象の高齢者が圧倒的に多い地域のニーズにも、もっと応えたいと考えています。尚、在宅勤務については、事例紹介や研修会報告などを、当科ホームページ内バックナンバーに掲載していますので、ご参照ください。

（安河内 奈々）

平成30年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2018年1月～2018年11月の累計	1名

就職・復職者の人数		
2018年1月～ 2018年11月の累計	新規就労	5名
	復職	29名

復職者講演会を実施しました

職能科では、訓練プログラムの一環として、復職したOB利用者さんをお招きして講演会を実施しています。今回は、脳血管疾患で高次脳機能障がいとなられたKさんに、ご家庭や就労継続支援B型施設、職能科で取り組んだりハビリ・訓練のことや、実際に復職してみての感想をおうかがいしました。Kさんには、リハビリ生活を家族の協力を得ながら楽しく過ごしたこと、復職時には会社の業務分担の見直しがあったおかげで仕事が楽になったこと、パソコンの機能をメモ代わりに活用していることなど、ユーモアを交えながら楽しく伝えて頂きました。今回の講演会は、多数の訓練利用者さんやそのご家族に参加して頂き、活発に質問も出るなど盛況のうちに終了しました。

（小林 國明）

職能科の評価の視点とアクティビティ①

職能科で評価する能力の一つに、コミュニケーションスキルがあります。個別訓練やグループ訓練での評価はもちろん、たまたま居合わせた他者とのコミュニケーションの様子や、話をしやすい環境設定の検討など、対象者のコミュニケーション特性を理解することは、在宅生活における日中活動への移行や地域の諸活動施設の利用に向けての準備には必要なものです。今回は、共同注視を利用した「三項関係」について紹介します。

～「三項関係」とは～

定型的に繰り返す組立作業などは、動かしている手を休めている間は作業が進みません。集中して取り組むことが難しい方には、目の前に処理すべき材料が残る状況になります。この種の作業は作業者のペースが直接作業実績に反映されるタイプと言えましょう。一方、作業者のペースによらないアクティビティに「生物活用」があります。生物は生物のペースで生育します。植物は、成長過程や開花、結実を視覚的に実感でき、「花が咲いた」などと言葉を介したコミュニケーションが成立しやすい特徴を持っています。AさんとBさんが並んで1つのものを見る「三項関係」が成立する場面は多く、対象の植物との心理的距離は同じ長さになります。二人で同じものを見ているときに相手の視線を追ってはおらず、共有関係を二人と対象物とで作りやすくなり、様々な話題が引き出され会話につながっていく可能性があります。視線を合わせるとストレスを感じる方がおられますので、対象を一緒に注視できる位置に並ぶようにします。草花や手芸品などの実物、アクセサリーの写真、話題の展開によって、インターネットで確認することもできます。

（伊藤 豊）

